

令和元年度 第2回
函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和2年2月20日（木）10時00分～12時00分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	<p>(1) 報告事項</p> <p>① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録までのスケジュールについて</p> <p>② 令和元年度 縄文文化普及啓発および世界遺産登録推進にかかる主な取り組み（下半期）について</p> <p>③ 令和2年度 予算の概要について</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>① 遺跡の保存活用について</p> <p>(3) その他</p>
出席委員	<p>熊谷 儀一 会長 川村 稔 副会長</p> <p>竹内 正幸 委員 田名部忠勝 委員 大宮トシ子 委員</p> <p>三浦 孝史 委員 松浦 宏 委員 笠島 美教 委員</p> <p>片桐 清実 委員 加藤 詔三 委員</p> <p style="text-align: right;">(計10名)</p>
事務局	<p>教育委員会</p> <p>生涯学習部長 堀田三千代</p> <p>文化財課長 蛭子井慶治 文化財課主査 福田 裕二</p> <p>文化財課主査 田中 光也 文化財課主任主事 大矢 京右</p> <p>南茅部支所</p> <p>地域振興課長 佐藤 安浩</p> <p>都市建設部</p> <p>まちづくり景観課主査 松橋 亨</p> <p>観光部</p> <p>観光企画課長 小林 祐樹</p> <p style="text-align: right;">(計 8名)</p>

1 開 会

開会 (事務局)	開会
-------------	----

2 挨 拶

開催挨拶 (生涯学習部長)	開催挨拶
------------------	------

3 出席者紹介

出席者紹介 (事務局)	協議会委員および事務局紹介
----------------	---------------

4 議 事

(1) 報告事項

① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録までのスケジュールについて

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録までのスケジュール (熊谷会長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料1) 『「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録までのスケジュール」説明
---	--

② 令和元年度 縄文文化普及啓発および世界遺産登録推進にかかる主な取り組み (下半期) について

令和元年度 縄文文化普及啓発および世界遺産登録推進にかかる主な取り組み(下半期) (熊谷会長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料2) 「令和元年度 縄文文化普及啓発および世界遺産登録推進にかかる主な取り組み(下半期抜粋)」 「令和元年度 普及啓発活動記録」説明
---	--

③ 令和2年度 予算の概要について

令和2年度 予算の概要 (熊谷会長) (事務局) (南茅部支所)	事務局に説明を指示 (資料3) 「令和2年度 予算の概要」説明 ※ 市議会へ提案した内容(議決前)である旨をあわせて説明 ・(仮)はこだて縄文フェスタ ・南茅部支所地域福祉バスラッピング 説明
---	---

<p>(観光部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊ルート作成関連 約10,000千円 広域観光（渡島，青函，北秋田など）コースの作成ほか ・国内外プロモーション関連 （国内）旅行業者との商談会，イベント開催，はこぶら掲載， 《食＋体験＋景観》パッケージ，修学旅行の誘致ほか 約20,000千円 （国外）体験型（コト消費）縄文コンテンツの作成，ブロガー， インフルエンサー等によるPR，レンタカーでの キャンプ商品企画ほか 約30,000千円 説明
<p>質疑応答</p> <p>(加藤委員) (観光部)</p> <p>(加藤委員)</p> <p>(加藤委員)</p> <p>(川村委員)</p> <p>(蛭子井課長)</p> <p>(熊谷会長)</p> <p>(川村委員)</p> <p>(加藤委員)</p> <p>(蛭子井課長)</p>	<p>説明では観光関連予算は項目も金額も多い。まとめた資料はないか。資料は準備していない。</p> <p>また，内容も観光施策全般にかかるものであり，そのなかで縄文も含めてPRしていくこととなる。</p> <p>令和元年度同様，令和2年度予算においても，各種事業を計画していることから，HPなどを活用し積極的にPRを進めてほしい。</p> <p>世界遺産登録をめざし様々な動きが活発になってきているが，縄文文化交流センターの入場者実績と今後の見込みはどうか。</p> <p>平成30年度は1万8千人程度であり，今年度は2万人を上回る見込みである。国内推薦候補に選定後，行楽シーズンを迎えたこともあり，前年度比1割程度増加している。</p> <p>縄文文化交流センターオープン（平成23年10月）の年度は，4万5千人，その後，減少傾向ではあったが，今年度は2万人復活を見込んでいる。今後，イコモス調査や勧告など，報道の都度来館者が増加すると見込んでいる。他の世界遺産も，登録決定後に来場者が増加する傾向にある。どれだけ増加するかは予想しにくいだが，オープン当時の人数程度は期待したい。多数の来館者にも対応できるよう対策を進めたい。</p> <p>オープン時と同様，登録時には来館者の増加が予想される。</p> <p>来館者を継続して確保していくことが大事であり，その方策を地域と共有し，今後協議していきたい。</p> <p>観光部からの照会もあり，縄文センターで行う体験学習の中で，新年度から実施可能なインバウンド向けのコンテンツを検討・開発中である。新型コロナウイルスなどの収束状況等にもよるが，縄文センターの活性化，南茅部地域の振興発展のためにも準備中である。</p> <p>三内丸山遺跡では，オープン時は約20万人，現在は約10万人の来場者であるが，都市部にある遺跡とこちらの遺跡とを比べても，立地条件の割に健闘していると思うがどう捉えているか。</p> <p>各種施設がそうだが，オープン効果もあり，はじめは興味の有無によらず来場するが，5～6年するとリピーターや縄文に興味のある方が来場するようになり，来場者数も落ちついてくるだろう。</p> <p>三内丸山遺跡との違いは，県の施設であることと市街地に近いことだが，それを加味しても縄文文化交流センターは健闘しているものと認識している。</p>

(2) 協議事項

① 遺跡の保存活用について

<p>遺跡の保存活用について (熊谷会長) (事務局)</p>	<p>事務局に説明を指示 (資料4) 「史跡垣ノ島遺跡 完成予想図」 (資料5) 「遺跡ガイド等の事例」 説明 遺跡ガイドに関する現在検討中の内容としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南茅部地域に在住する方、発掘調査経験のある方の協力 ・旧市内地域で活動する観光ボランティアガイドとの連携の検討 ・運営母体となる団体の検討 ・ガイドの有料・無料の検討 <p>これらについて、今後、委員の皆様からもご意見をいただきたい。</p>
<p>(熊谷会長) (片桐委員)</p>	<p>南茅部高校の縄文クラブにおいても、高校生によるガイドの養成講座を行うなど、縄文に関する様々な取り組みを進めているようなので、南茅部高校校長の片桐委員から、学校での取り組みなどについてお知らせいただきたい。</p> <p>南茅部高校では、将来的に縄文ガイドの育成を目標とし、「縄文文化魅力発信事業」を3ヶ年計画としてスタートした。初年度は縄文を知り、来年度はより深く学習して原稿を作成しガイドに取り組んでいく。イコモス審査では、地域の盛り上がり若者の関わりが重要と考えており、南茅部高校の使命もそこにあると認識している。</p> <p>また、教育課程の中に、南茅部地域学として縄文や昆布を盛り込んで学習し、新聞、HPで発信するとともに、生徒の活動から保護者や地域を巻き込んで縄文をPRしていきたい。</p>
<p>(熊谷会長) (笠島委員) (松浦委員)</p>	<p>同様に、小学校や中学校において取り組んでいる活動や、取り組める活動などはあるか。</p> <p>尾札部中学校では今年度から、総合学習で縄文学習に取り組んでいる。臼尻中学校も今年度から縄文学習を実施している。</p> <p>学校の統合も念頭に、臼尻中学校とともに南茅部高校縄文クラブと交流するなど、学んだことを身近な活動に繋げていきたい。</p> <p>さらに、恵山地区のようにCSを活用した地域学習が可能であるため、遺跡ガイド人材とともに縄文学習に取り組むことも可能である。</p> <p>また、令和2年度は南茅部地域の小中学校教員研修を縄文センターで実施予定であり、縄文文化について研修を行うこととしている。</p> <p>大船小学校では、ふるさと学習の一環として、全校児童で縄文学習に取り組んでおり、縄文文化交流センターを頻繁に活用している。</p> <p>また、校舎には児童が作成した世界遺産登録を応援する看板を掲示するなど、縄文に関する様々な活動を活発に行っている。</p> <p>新年度から全面実施となる学習指導要領では、“教科横断”が大きな柱のひとつとされており、各教科に地域の縄文(社会科)を絡めた学習を検討したい。例えば、竪穴住居を造る(図工)、縄文時代からある植物の観察(理科)や調理(家庭科)、縄文太鼓の演奏(音楽)、縄文パンフを作成(国語)し修学旅行で配布するなど、地の利を生かした学習を進めたい。あわせて、児童から保護者へ機運を高めていきたい。</p>

(熊谷会長)	住んでいる地域を知ることや学ぶことはとても大切であり、今後、地域のために生かしてもらいたいことを願う。
質疑応答	特になし

南茅部支所での地域振興に関する取り組み (熊谷会長) (南茅部支所)	南茅部支所地域振興課長に説明を指示 (資料6) 「南茅部支所での地域振興に関する取り組み状況」 説明 (パソコン操作方法をスクリーンに投影して説明)
質疑応答	特になし

民間団体の活動との連携 (熊谷会長) (事務局)	事務局に説明を指示 (投影資料) 「民間団体等の活動との連携に関する新聞記事等」 説明 今後においても、包括連携協定企業や各種団体などの協力を得ながら、活動の拡大に繋げたい。 あまり縄文に興味のない方にも視覚的に訴えるなど工夫していく。 委員の所属団体等において取り組み可能な活動や、協力可能なことはないか。今後の活動連携等について意見をいただきたい。
(熊谷会長) (竹内委員) (三浦委員)	商工会議所や観光関連業界において、何か連携して行える内容や活動などはないか。 道南縄文文化推進協議会および商工会議所では、学生が考案したキャッチコピーを函館駅前(北洋ビル)に登録推進の横断幕として掲げているほか、公共施設など主要施設等に中空土偶大型パネル30体を作成し設置した。観光客なども写真撮影するなど好評である。 同協議会賛助会員(市民サポーター)は770名。情報発信により“南茅部に来る仕掛け”を構築したい。例えば、湯川温泉のホテル組合(約70施設)にポスター掲示やピンバッジを付けた接客等により、市内ホテル宿泊客に縄文をPRするなど検討したい。 函館国際観光コンベンション協会は、関連企業500社が加盟。 HP、国内外旅行代理店周知、SNSインフルエンサーの招聘のほか、市港湾空港部とクルーズ船の誘致も行っており、感染症が収束し状況が整えば現地を見てもらいたい。 また、旅行業も実施しており「はこだてスペシャルチケット」を販売し縄文センターも対象施設としている。今後も引き続き実施していくが、今年度は7千枚販売予定で半分以上がインバウンドである。 このほか、港まつり、クリスマスファンタジー、冬フェスティバルなど事務局となっているイベントを活用したPRに努める。 なお、昨年秋、南茅部ハイヤーが廃業したが、南茅部地域は森圏域のため函館市内のハイヤーを配車できない状況であり、関係部署でも既に協議中と思うが、個人旅行が主流のなか、レンタカーやタクシーでの移動などにより、まちにお金を落とす工夫を検討していきたい。

(南茅部支所)	ハイヤーの件については、市企画部、国交省陸運支局、市内ハイヤー関係団体等と協議中である。
質疑応答	特になし

(3) その他

<p>その他 (事務局)</p>	<p>登録後を見据えた検討課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 史跡大船遺跡、史跡垣ノ島遺跡、縄文センターへ誘導する案内看板や道路標識、観光看板などの設置・張替等について、令和3年度の設置に向け検討中である。 ○ それらの多言語対応についてもあわせて検討中。 ○ 縄文文化交流センターおよび史跡垣ノ島遺跡の駐車場対策として、登録直後などは不足も予想されることから、複数の周辺の空き地等を借用し臨時駐車場として検討している。徒歩が困難な場所であれば、車両での巡回輸送等も検討する。 <p>大船遺跡についても同様に周辺の空き地等の活用を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 路線バスの運行について、南茅部バイパスを走行するルートの開設などを運行企業に検討を依頼中。時間を要すると思われる。 ○ 来館者の増加に伴うセンターおよび垣ノ島遺跡の管理運営体制、入場者の制限などについても検討が必要である。 ○ 景観の保全については、現在はほとんど開発されていないが、これをどう維持していくか今後も意見をいただきたい。 <p>来年度の協議会について、本年度同様2回の開催を予定している。世界文化遺産登録および史跡垣ノ島遺跡供用開始の前年度であり、縄文遺跡群の保存と活用、景観対策等を含め、より具体的な協議について、皆様と情報共有しながら進めていきたい。</p>
<p>質疑応答 (田名部委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(南茅部支所)</p>	<p>イコモス調査にあわせ、創生の会は地域として道路の清掃活動が必要と考えている。このほか、地域として取り組むべきことや調査時に対応が必要なことはあるか。</p> <p>地域として清掃などの活動は非常にありがたい。</p> <p>現地調査は、イコモスから1名と外務省、事務局、道など総勢20名程度となるが、イコモス委員の専門分野は現時点では不明であり、調査内容も公表されない。今回は、発掘調査当時の状況について聞き取りがあった。</p> <p>地元の盛り上がりも大事だが、今後、登録後に地域とどうやって協力して資産を守っていくかが最も重要なポイントとなる。</p> <p>また、迎え入れ体制等が必要であればお願いすることになる。</p> <p>ゴミの散乱状況については、支所も憂慮しており、縄文を活かした地域懇談会でも実施に向け協議していく予定である。</p>

(加藤委員)	<p>市内の各種団体等，たくさんの企業等に参画していただき感激している。地元としてできることは，せめてイコモス調査時に，清掃活動や来訪に対する歓迎など関わることだと思っている。</p> <p>また，各種会合での参集者をはじめ，興味の薄い地域の人たちに対し，世界文化遺産登録までのスケジュールや，これほど様々な取り組みが行われていることを資料等にまとめてお知らせし，地元における機運醸成に繋げたい。</p>
--------	--

5 閉会

閉会 (事務局)	閉会
-------------	----